

監査始まる！適正処理の再徹底を！

社長、あなたは処理結果に責任を持てますか？

8月13日に自動車再資源化協力機構から、エアバッグ類の車上作動処理の監査が始まるという周知文が届きました。その文章の中には、「昨年度の現地監査においては、エアバッグ類の未処理や不適正が発生した事業者には『**管理体制の不備**』が多く見受けられました」と記載がありました。具体的には、



- × 事業主/車上作動処理責任者がエアバッグ類の処理結果を確認・把握していない。
- × 社内教育を行っていない。

とあり、「事業主および車上作動処理実施責任者の皆さまにおかれましては、継続的な適正処理のためエアバッグ類の処理結果を把握できる『**管理体制の構築**』および『**社内教育の実施**』をお願いいたします」と締めくくっておりました。また、自動車再資源化協力機構のHPにはエアバッグ類車上作動処理の加入事業者に対して、規約第7条に基づき行った加入登録の取消事業者が公表されており、以下のような事例が掲載されておりました。

事例1(北海道)

- 1) ハーフカット車1台のエアバッグ類(運転席・助手席)が未処理であった。
- 2) 前回監査時に管理台帳を全く作成していないことを指摘・改善指導を受けたにもかかわらず、今回監査でも同様の指摘があり、改善が確認できなかった。

事例2(静岡県)

- 1) 解体自動車置場に保管の車1台のエアバッグ類(助手席)が未処理であった。
- 2) ハーフカット車3台のエアバッグ類(運転席・助手席)が未処理であるにもかかわらず、管理台帳に処理済と記載し、エアバッグ類引渡報告を行い、エアバッグ類の作動料金を受領していた。
- 3) 車上作動処理業務を第三者に委託をしていた。

事例3(愛知県)

- 1) 部品置場に、自動車メーカー等に引き渡す目的以外(転売目的)で205個のエアバッグ類を保管していた。



(次ページに続く)→

目次

巻頭言 1
トピックス1	
適正処理の再徹底を！ 1~2
トピックス2	
共同出荷、目標値決定 2
ニュース 3
鉄スクラップ最新情報 4
行事予定・お知らせ 5
編集後記 5

巻頭言

私の身近な方で「孫が生まれた」と、最高の笑顔で話をされる社長様と話す機会があったり、また、息子さんが仕事をしていることを照れながら話をさせていただいたり、うれしい話を聞く機会がありました。近年私たちの業界も事業承継があらこちらで見受けられます。先日参加した事業承継のセミナーのスローガンは、「100年続く会社を目指そう」で引き渡す側、引き受ける側の両者の話を聞く機会をいただきました。後継者の資質向上、後継者を支える人材育成、取引先との良好な関係維持、金融機関との関係の維持など、私たちの自動車リサイクル産業も、創業者の方々の様々な使命と想いを抱きながら築き上げていただけて今日があると。

(広報部会 平地 健)

自動車再資源化協力機構の媒体の中で「**社長、あなたは処理結果に責任を持てますか？**」という内容を目にしたことがあります。とても意味深く考えさせられた言葉でした。私たちが扱う使用済自動車には、フロン類、エアバッグ類、廃油、廃液等様々なものがあり、適正に処理を行いながら、リユース、リサイクルの工程で解体作業を行います。日常の業務のフロン類の回収、エアバッグ類の処理及び回収の処理結果の責任とその他様々な処理に対する意識が高まり重要性を再認識させていただきました。

現在、昨年より始まった自動車リサイクル士制度認定講習会が全国で展開しております。平成26年8月までに約700人の方々(実務士初級、上級、管理士)が講習会を受けられ自動車リサイクル法のかかわる事業者の法に対する理解を深め、自動車リサイクル法の安定的な運用と適正処理の広まりを見せています。受講された事業者の皆様、その後事業所内の適正処理業務はいかがでしょうか？是非、参加される前と以後を振り返っていただき、ご意見をいただければ幸いです。今後増々、私たち一人一人が責任ある行動で、適正処理の推進と不適正処理の撲滅を各事業所、地域、全国的な広がりへと繋げていきたいと思っております。

(ブロック長会議長 平地 健)



▼詳細は、自動車再資源化協力機構のホームページよりご確認ください。

<http://www.jarp.org/news/2014/airbag140813.html>

貴金属類の共同出荷事業、各ブロック回収目標値決定

各ブロックの回収目標値をもとに精錬業者と交渉中

「平成26年度貴金属類の共同出荷事業」(実施概要は前号に掲載)の各ブロックにおける回収目標値が決定しました。現在、この回収目標値をもとに、輸送コストの削減を視野に入れて巡回回収の提案を行うなど、精錬業者との交渉を行っています。ご参加くださる会員の皆様には、精錬業者が決定し次第、買取条件や単価などの詳細をご連絡させていただきます。

本事業は、資源の国内循環促進はもちろんのこと、個社が出荷するより有利な条件で販売するために行う取り組みであり、会員各社の売上を増加させるためのトライです。実績を重ねるまで努力を要するものではありますが、ご参加くださる会員の皆様のためにも、精錬業者との交渉に力を尽くしてまいりますので、何卒ご理解・ご協力をお願いいたします。

ブロック	回収目標値(kg)		
	コンピューター基板	エアバッグカプラー	センサー類(O2・AF)
北海道	1,600	80	0
東北	500	50	50
関東(東)	2,500	250	250
関東(西)	2,100	210	210
中部・北陸	1,200	120	120
近畿	400	40	40
中国・四国	500	50	50
九州	700	70	70
全国	9,500	870	790

北海道ブロック、自動車リサイクル士制度認定講習会を開催

北海道ブロック長 石上 剛 様より、ご寄稿いただきました。



「自動車リサイクル士制度認定講習会を終えて」

さる9月11・12日に、2回目となる自動車リサイクル士制度認定講習会を開催いたしました。今期新しくブロック長になった私にとっては初めての開催であり、さらに昨年は一日講習でしたが、今年から二日間講習に変わり、解らないことだらけの準備スタートでした。

2か月半ほど前からELV機構事務局に相談しながら準備を始めました。まず北海道自動車処理協同組合（北自協）の会員以外の業許可取得企業のリストを作成し、案内を出してもらうためにELV機構事務局へ送りました。北自協会員以外に300社以上の許可業者が存在している事実に変更で驚きました。今後、この企業集団に少しでも北自協会員になってもらいたいという新しい目標もできました。

広い北海道にインストラクターは3人しかおらず、直前に1名が会社を退職したと連絡があり、インストラクター資格があった辻商会社長に急きょ講師をお願いするなど、開催直前までハラハラが続きました。昨年の経験者である二協自動車の吉岡氏と石上車輛の笹原氏の講師の姿は大変頼もしく、テキストの説明も文面以外の自分言葉を沢山使って、とても解りやすい進行でした。地方行政からも、北海道経済産業局資源エネルギー環境部リサイクル推進係長の佐々木 悠太 様に一講義をご担当いただき、本部役員から吉川氏・佐々木氏・三木氏、事務局から三浦氏の応援も頂き、無事に終了することができました。後は受講者全員の合格を祈るばかりです。多くの皆様のお力をお借りして講習会を実施できたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(北海道ブロック長 石上 剛)

未来政策部会講演会を開催



9月3日(水)、ELV機構本部会議室にて、未来政策部会講演会が開催されました。講師として株式会社アーネスト 代表取締役 永塚 政義 様をお招きし、「自動車リビルト部品の現状及び今後」というテーマで、自社の概要からリビルトの概念、国内外のリビルト産業の現状及び動向などについてご講演いただきました。

当日は20名の参加者があり、講演後も永塚様を取り組まれているリビルト部品の規格化に関する質問を中心に活発な質疑応答が行われました。

ブロック会議報告

■ 沖縄ブロック会議

開催日時 平成26年8月28日(木)13:00～15:00
開催場所 拓南商事株式会社 会議室
(沖縄県うるま市)

議事内容

- ・自動車補修用リサイクル部品の規格策定について
- ・共同出荷事業について
- ・自動車リサイクル士制度認定講習会について

■ 九州ブロック会議

開催日時 平成26年9月13日(土)13:00～17:00
開催場所 サンライフホテル2・3号館 会議室
(福岡県福岡市)

議事内容

- ・第1回ブロック長会議報告
- ・26年度共同出荷事業について
- ・27年度自動車リサイクル士制度認定講習会スケジュール
- ・今後の会議日程

■ 9月第4週(26日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供 / 日刊市況通信社]

海外安などで上げ一服、「天井感」が台頭

国内の鉄スクラップ相場は海外安などをを受けて上げ一服となり、市場では「天井感」が台頭している。鋼材需要や鋼材相場の伸び悩みなどで電炉生産が伸びず、夏季減産期からの鉄スクラップ需要の伸びが限定的となったことも大きい。国内スクラップH2の9月第3週末(20日)時点の炉前総合価格(本紙調べ)は、前週末比166円高の1トあたり3万2333円。5週連続の値上がりだった。ただ、主要3地区のうち上伸基調が続いたのは、7月の下げ幅が大きかった関東地区のみで、中部や関西地区は第2週に500円どころの値上がりが見られたのみで、上伸の勢いに差が見られた。関東地区も18日以降の電炉筋の値上げ改定は見られず、今週末の炉前総合価格は前週末比で横ばいとなる見通しだ。



輸出市場は輸入国の引き合いが弱く、商談が進まない環境が続いている。そうした中で、米国玉がトルコ向け、東アジア向けとも値下がり。韓国向けのNo.1ヘビーの直近の成約価格は1トあたりCFR367ドルと370ドルを割り込んだ。単純に比較すると急速に進んだ円安の影響で日本玉の輸出価格には上げ余地があるが、輸入国は新規成約に消極的。輸出市場の不振さが国内市場での「天井感」台頭の要因の一つになっている。

【関東地区】電炉各社の入荷は上向き 需給双方に「天井感」台頭

9月26日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	33,000	～ 34,500	横ばい
	南関東	33,000	～ 34,500	横ばい
名古屋		32,500	～ 34,000	横ばい
関西	大阪	32,500	～ 34,000	横ばい
	姫路	32,000	～ 32,500	横ばい

関東地区の電炉各社の鉄スクラップ入荷が上向いている。市中業者筋が電炉向けの出荷に動いているためだ。海外市場の値下がりや輸出商談の不振、船送り数量の減少など弱要因が台頭してきたため、需給双方とも相場に「天井感」が出てきている。湾岸商社・シッパー筋は、海外の弱基調から引き合いを弱めている。H2炉前実勢価格は33,000～34,000円中心、高値34,500円見当。H2浜値は32,50～33,000円中心で様子見横ばい。

【東海地区】市況は高止まり様子見気配からやや膠着気味の見方に

名古屋地区では、輸出の不透明感や鉄鉱石価格の大幅下落などもあり、月末を控えて市況の期待感が薄れ始めている。ただ、発生薄による市中滞貨玉の減少もあり、需給が急速に緩むことはないと思われる。業者は連休明け以降、出荷の動きを強めている。ただメーカー入荷が大幅に上向き状況になく、市況は高止まり様子見気配からやや膠着気味の見方となっている。H2炉前実勢価格は32,500～33,500円中心、高値34,000円見当。

【関西地区】月末環境も水面下での入荷促進続く

大阪地区では、需給引き締め要因の2度にわたる祝日が終了し、市況上伸余力は失われそうだが、10月に向けて電炉筋の多くが一定レベルの入荷は促進したい意向を持ち、水面下での引き合いは継続したまま月末入りを迎えた。入荷難が続いた筋も海上荷の調達に踏み切ったことで、一頃のような需給不安は解消へ向かっている。H2炉前実勢価格は32,500～33,500円、一部高値34,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は32,000～32,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月26日午前時点のもの)

行事予定

10月の主な予定



10月2日(木)

- ・第1回 規格策定準備ワーキンググループ
- ・第33回 産構審・中環審合同会議

10月8日(水)

- ・第4回 リサイクル技術部会

10月9日(木)

- ・第4回 三役会

10月10日(金)

- ・環境省事業 関東ブロック説明会

10月18日(土)

- ・第3回 東北ブロック地域団体合同交流会

10月21日(火)

- ・第7回 広報部会

10月25日(土)

- ・沖縄ブロック 自動車リサイクル士制度認定講習会リハーサル研修会
- ・第2回 規格策定準備委員会

10月26日(日)

- ・関東ブロック会議

10月28日(火)～29日(水)

- ・近畿ブロック 自動車リサイクル士制度認定講習会



お知らせ

■会員数(2014年9月現在)

総数 687社 / 会員 659社、賛助会員 28社

■新規ご入会者のご紹介(2014年9月ご入会)



会員

北海道旭川市「株式会社 北祥」様

■自動車リサイクル士合格実績(2014年9月現在)

資格の種類	平成25年度	平成26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	18名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破砕工程)	15名	20名
自動車リサイクル管理士	626名	88名



CHECK!

大阪府自動車整備振興会の会報誌9月号(月刊)に自動車リサイクル士制度認定講習会の案内を載せていただきました。



編集後記

エアバッグの立入監査が始まったということで、対象業者は否が応でも緊張感を感じているのではないのでしょうか。なにかしら安全運転をしているにもかかわらず、パトカーと遭遇するとつい緊張してしまうのと似ています。自動車再資源化協力機構の担当者に伺ったところ、決して不正を暴こうというものではなく、あくまで安全作業を喚起することが目的であることをおっしゃっていただきました。そうとわかってはいるものの、なぜか動揺してしまうのは私だけではないと思いますが…。▲これまでニュースレターは、会員専用として配信されておりました。しかしながらもっと多くの皆様に読んでもらおうという意向から、次号より最新号だけはホームページから誰でもアクセスできる体裁になります。「会員と一般の差がなくなるのではないか」との意見もありましたが、会員のメリットはより実質的な部分で享受して頂き、ニュースレターは機構の活動や業界の動向を多くの皆様に発信することで、機構の存在意義や価値を理解してもらおうというのがねらいです。会員の皆様には理解頂きますようお願いいたします。

(広報部会 部会長 永田 則男)